



GIGA スクール通信 vol.24

令和3年度から、GIGA スクールによる一人一台端末を本格的に活用した教育が始まった垂水市。ここでは、市民の皆様にも、GIGA スクールはどういったものなのか解説するとともに、各校の取組を紹介することで、GIGA スクール構想を基にした教育に親しみを持っていただければと思います。



坂元 裕人 教育長
平成29年から教育長に就任し、現在3期目。

渡邊 光浩 准教授
宮崎県公立小学校・教諭を経て、2018年より専任講師を経て現職。

GIGAスクールの成果

坂元 渡邊先生がアドバイザーとして、垂水市の取組みや、先生方と子供たちの変容など、どのように捉えておられますか。

渡邊 子供たちは、学習の道具として問題なく使いこなせるようになってきています。先生方は、活用が当たり前という考えになってきていて、「学習者主体の授業」についても理解が進んでいると感じています。垂水市の小学校で、大学などとオンラインで接続し、専門家と交流しながらの授業を見せていただきました。今までは、特別な取組みとして捉えられがちでしたが、「普通のこと」のように取り組んでいました。GIGAスクール構想で整備された環境の下、ICTを活用した授業がどの学校においても進んでいると思います。

坂元 渡邊先生が「授業を通して具体的に学ぶ必要がある」とおっしゃいますが、垂水中央中学校が、県の研究協力校として取り組んだ「学校における教育の情報化」の研究公開がとてもよい研修となりました。具体的に言うと、特別活動の授業では、働くことについて、生徒が初めは「お金」と結び付けて、生徒が初めは「お金」と結び付けて

て考えていましたが、「社会貢献」にまで広がっていきました。その変容がICTの活用によって瞬時に把握できていました。

渡邊 そうでしたね。共同編集で生徒全員の意見が一覧にできているのがよかったです。さらに、そこに止まらず、情報をちゃんと整理して伝えることまでできているのもよかったです。これは、他の公開授業でも同じようにできていました。研究公開での授業はICT機器の活用がグッと進み、リーディングDXスクールとしても、とてもよい取組みになっていました。

坂元 学力調査の結果では、垂水市の児童生徒の学力が向上しています。GIGAスクール構想の取組みは、学力向上にどう影響するのでしょうか。

渡邊 教育はいろいろな要素があつて効果が表れるので、GIGAスクール構想の取組みだけではないと思います。しかし、1人1台端末の活用が進み、教師の学習観・授業観が問い直され変容していることが影響しているかもしれません。その上で、学力向上のための授業づくりに取り組んでおられることが結果につながったかもしれません。

坂元 子供たちのスキルはいかがでしょう。

渡邊 私は、ICT機器の操作について専門に研究しています。研究の結果としては、先生が子供たちに主体的にどんな活用させた方が、スキルは身に付きます。新しい操作を身に付けさせる場合に、先生が教えてから使わせるクラスと、「先生もよく分からないうけど、自分たちで試してみよう」と子供たちに任せているクラスとでは、任せているクラスの方がスキルは上がるのです。教える必要がないという意味ではありませんが、データとしては明らかにしているのです、スキルの習得は子供たちにどんどん委ねた方がよいです。

新たな学びの姿

坂元 先進校では、思考と入力を同時に行っている生徒の姿が見られました。入力しながら考え、考えながら入力することができていたようです。

渡邊 そのような学校では、考えることも鍛えられています。調べる・整理する・発信するなど、様々な段階において生徒主体で授業を進め、あちこちで考える場面があるので、考える力も同時に

鍛えられています。思考力は考えることでしか身に付きません。思考しながら入力することで、入力が速くなる。そうすることで又、思考も入力も伸びるという相乗効果になっています。

坂元 GIGAスクール構想によって、ICT活用の環境が整備されたことで、授業がかなり変わってきたということですね。

渡邊 今までの自分の授業の進め方、ICT活用を組み込んでいくという考え方はなく、子供たちが1人1台端末を活用することが前提で授業づくりをしていかなくはなりません。これまでの授業づくりの概念をリセットする必要があります。子供たちの学びが大きく変容していることから、授業をどのように組み立てるかを考えていくことになります。

坂元 「自立した学び」「自走する学び」という言葉がよく聞かれるようになりましたが、子供たちにとっても「学び方」が変わることになりますね。

渡邊 自己調整という言い方がありますが、自分でどれだけのことを調整できるか、その度合いが増えていくことになります。低学年でも複式学級においてガイド学習に取り組んでおり、子

供たちが進捗したり役割分担したりする場面があります。子供たちに任せ、子供たちが自分で決めていく場面をどんどん増やすことで、自己調整につながっていくと思います。

今後の取組み

坂元 今後の垂水市の取組みとして力を入れていきたいのが「学びの保障」です。様々な状況に対応できるように、子供たちが学べる環境や態勢を整えておくことが必要です。現在取り組んでいる、オンラインによる遠隔合同授業なども計画的に進められるようにしたいと考えています。

渡邊 「いつでも、誰でも」という視点は大切ですね。各学校でそれぞれGIGAスクール構想の取組みを進めておられますが、どの先生も同じレベルではないと思います。今後は、「どの学校の、どの先生も活用します」と言えると思わしいです。そのためには、授業について具体的に研修できる場が必要です。例えば、みんなで一つの授業を見て、授業づくりの具体的な方法について協議することができれば、1人1台端末の活用が更に進んでいくと思います。

坂元 組織はいろいろな方々で構成されており、それぞれの持ち味を生かしながら柔軟な発想でよい授業づくりができるとういことです。

渡邊 先生方の研修も、子供たちの学びと同じようにクラウドを活用して、みんなの意見を取り上げるようにしたいです。ベテランの先生の考えだけで研修を進めるのではなく、みんなの考えを共有しつつ、納得しながら授業づくりが進められると、みんなで新しい授業を考えることができます。

坂元 学校組織の在り方によって、授業の質を高めたり、業務改善につながったりしますね。そして、教師は生涯学習続けることが大切ですね。

渡邊 それは間違いありません。子供たちを学び続ける学習者にするには、教師がその姿を見ることが必要です。学ぶ姿にはいろいろありますが、教師が子供たちの学びを見て「すごいね」と思えるとういことです。

坂元 そこには「楽しむ」というキーワードがあると思います。子供たちが自ら学んでいく授業を教師が楽しむ、そして、教師として人としての学びを楽しむことができるとういことです。